



シンガポールの都市緑化政策

北陸銀行 国際部
シンガポール駐在員事務所
所長 相川 裕亮

1. はじめに

シンガポールの街並みを見てみると、中心部のビル街であっても緑を取り込もうとしていたり、道路脇からでも緑が多く見受けられたりと都市化と緑化のバランスが取れた美しい都市であることに気がきます。このグリーンシティ構想は1965年の建国当時から進められてきた政策であり、本稿ではそうした緑化政策の一端をご紹介します。

2. 政策のあゆみ

シンガポールの国土は約720万km²で東京23区よりやや大きく、人口は約564万人（2022年）です。人口は東京都の半分以下の規模ではありますが、この狭い国土に生活インフラや国防施設等も含めて構える必要性もあり、計画性のある都市政策が求められてきました。

（1）緑化政策

グリーンシティに向けての環境都市づくりは1965年の建国当時から進められ、1967年には国土緑化運動が「ガーデン・シティ」政策として正式に発表されました。当時経済的には後進国であったものの緑化および環境水準に関しては世界一流となることを目指し、海外からの訪問者に安全で清潔な「トロピカル・ガーデン・シティ」として認知させ、海外からの投資や観光客を呼び込むことを目的としたものでした。具体的には、「クリーン&グリーン」運動として政策が推進され、緑を植えゴミを拾うといった物質的な面での改善だけでなく、国民の意識の改善にも時間と労力が費やされ、70年代には街全体が緑で覆われるようになりま



【緑あふれる中心部のビル街の様子(筆者撮影)】

した。現在でも緑化は着実に進められています。

2012年には「City in a Garden」（緑に囲まれた都市）という新しいビジョンを打ち立て緑化政策を進めると共に多様な環境政策に取り組んでいます。都市空間の緑化だけでなく、都市周縁部の広域の緑地を緩やかにつなげ、シンガポール全体で都市と自然の共生を図ろうとしています。

（2）都市政策

1971年以降、40～50年を期間として10年ごとに見直しが行われる長期計画のコンセプトプラン^{※1}と、コンセプトプランの実践計画の位置づけで10～15年を期間として5年ごとに見直しが行われる中期計画のマスタープラン^{※2}をベースとして計画的に進められてきました。

2011年の改訂コンセプトプランでグリーンインフラの強化や自然遺産の保全等が掲げられており、また、マスタープラン2019では5つ掲げられたテーマの一つであるLivable and Inclusive Communities（住みやすく包括的な地域社会）の中でも公園やスポーツ施設、緑地間のネットワークの拡大により、90%以上の世帯がこれらの施設へ徒歩でアクセスできるようにすることが示されています。

※1コンセプトプラン:40年から50年を期間とした長期計画であり、シンガポールにおける土地資源の戦略的利用計画及び交通計画を統合した総合プラン。10年ごとに見直しが行われる。予想される事項成長・経済成長に必要な土地を確保し、優良な生活環境をそう創造することにある。1971年に初めて策定された。

※2マスタープラン:10年から15年を期間とした中期計画であり、コンセプトプランに書かれている長期戦略を具体的かつ詳細的に策定する実践計画である。5年ごとに見直しされる。1980年に初めて策定され、2003年、2008年、2014年、2019年に策定されている。

3. 近年のグリーン政策

代表的政策例としては持続可能な開発に関して2020年から2030年までに取り組むべき野心的かつ具体的な目標を掲げた「グリーンプラン2030」があります。以下の5つの主要な柱の下、数値目標が設定されています。

主要な柱		2030年までの目標例
1	City in Nature (自然の中の都市)	• 100万本の植樹 • 埋め立て廃棄物量の30%削減
2	Energy Reset (エネルギーリセット)	• 2025年までに太陽光エネルギーの導入を4倍に • 建物の80%をグリーン化（総床面積ベース）
3	Sustainable Living (持続可能な生活)	• 2030年からは新規登録車はすべてクリーンエネルギーモデルに
4	Green Economy (グリーンエコノミー)	• アジアの低炭素で持続可能な未来への移行を促進する グリーン金融とサービスの主要センターになる
5	Resilient Future (弾力性のある未来)	• シンガポールの必要栄養量の30%を持続的に生産できるよう食品産業の能力を高める

例えば建物のグリーン化においては、目標の実現に向けて一定の基準を満たす屋上や壁面の緑化にかかる費用の最大50%助成する等数値目標の達成に向けた財政支援が行われています。近年では緑化されたビルを目にする機会も増えており、環境意識の高い人々を惹きつけることにも繋がっています。



【街で見かける緑化されたビルの例(筆者撮影)】

4. おわりに

建国から数十年でシンガポールの一人当たりGDPは82,808USドルと世界6位（2022年IMF統計より）が示すように、アジアの中で最も発展した国となりました。天然資源や食料、十分な内需もない中で発展してこられたのは外資導入を国策の根幹に据えた政府による強力な国家戦略にあり、長期的ビジョンに沿って政策を実現してきたことによるものでした。緑化政策もその一環であり、当初の目的であった外資誘致をはじめ見事に成果をあげています。

環境や持続可能性に関心が高まる昨今において、先を行くシンガポールの取り組みに益々注目が集まりそうです。

参照資料:「シンガポールの政策 令和3年度(2021年度)改訂版 一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所」
:「グリーンプラン2030」 <https://www.greenplan.gov.sg>

＜ご注意＞文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076) 254-6500 FAX: (076) 254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp